基本領域　外科専門研修

連　携

- 兵庫京大外科専門研修プログラム

  （外科、乳腺外科、胸部・心臓血管外科）

- 三重大学医学部附属病院外科専門研修プログラム

  （胸部・心臓血管外科）

外 科

1. 外科の理念・特色

豊岡市をはじめとする但馬地域の基幹病院として、消化器癌、乳癌などの癌に対する手術と術後の集学的治療を中心に診療を行っている。胆嚢胆管結石、各種ヘルニアその他の良性疾患の待機的手術を実施しているほか、緊急手術としては、外科通院患者が対象の緊急手術、院内及び院外からの直接外科の紹介された患者の緊急手術に特化して行っている。

最近は消化器癌に対しては、適応に応じて腹腔鏡下で手術を行うようにしており、現在、胃癌や結腸・直腸癌に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行っている。

手術後の癌化学療法、フォローアップも外科で行っており、化学療法の大多数は化学療法専任看護師が従事する化学療法室で外科化学療法として行っている。

外科の外来診察は基本的に3診制で行っている。

なお、豊岡病院では、従来外科が担当してきた外科対象疾患の緊急手術の多くは救急集中治療科が行っているほか、胃癌、大腸癌で内視鏡的に切除が可能な早期癌については、消化器科が担当している。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

専攻医が医師として必要な基本的診療能力と外科領域の専門的診療能力を習得することを目標とする。併せて外科医として知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となることを目指す。このために、外科領域全般からサブスペシャルティ領域(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科)またはそれに準じた外科専門領域(乳腺や内分泌領域)の専門研修を行い、それぞれの専門医取得へと連動するものとする。

イ. 経験できる診療、技術

担当する分野:

食道癌

ガイドラインに従い、stage Ⅰの症例に対してはそのまま手術、stage Ⅱ,Ⅲの症例に対しては術前化学療法(NAC)の後、症例によっては胸腔鏡を併用した根治術を行っている。また、切除不能症例には化学療法や化学放射線療法を行っている。

胃 癌

ガイドラインに従いT2、N1までは腹腔鏡下の手術を導入している。また、早期胃癌には機能温存手術を積極的に行っている。

一方、予後不良と考えられる高度進行胃癌を対象として、臨床試験として術前化学療法(NAC)を施行した後、手術を行っている。術後は、補助化学療法をstage Ⅱ,Ⅲを対象に施行し、再発症例に対しても積極的に全身化学療法を導入している。

大腸癌

大腸癌にはD3郭清をともなう腹腔鏡下手術を標準治療としている。一方で、局所進行直腸癌に対しては他臓器合併切除を含めた拡大手術を行い、術後化学療法を用いて予後の向上を図っている。下部直腸癌症例に対しては側方リンパ節郭清を定型的に行っている。

術後はエビデンスに基づいた補助化学療法に加え、進行・再発大腸癌に対しては最新の分子標的薬を併用した全身化学療法を標準治療として施行している。また切除可能な肺・肝転移に対しては積極的に手術を施行し、良好な治療成績を得ている。

肝 癌

術前診断から治療まで消化器科と合同で治療戦略を立て、部位や個数、患者さんの肝予備能とのバランスから手術適応・術式を決定している。また、最近増加傾向にある転移性肝癌に対しては積極的に手術を施行し、良好な治療成績を得ている。

膵臓癌

膵頭部癌、十二指腸癌・乳頭部癌、下部胆管癌に対して定型的な膵頭十二指腸切除術を、膵尾部癌に対しては膵体尾部切除を施行しており、出血量の少ない安全な術式を確立している。

急性胆嚢炎

発症早期の症例には手術を原則としており、可能な限り腹腔鏡による手術を行っている。

一方、重症例にはドレナージを施術後、待機的に手術を行っている。

鼠径ヘルニア

症例に応じて腰椎あるいは脊髄麻酔下にLichtenstein法を、全身麻酔下に腹腔鏡下ヘルニア手術を行っている。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
早朝	総回診		カンファレンス	総回診		休日 （病棟当番） （病院日当直） （講習会） （学会）
午前	手術 または 外来	手術 または 外来	手術 または 外来	手術 または 外来	手術 または 外来	
午後	手術 または 外来	手術 または 外来	手術 または 外来	手術 または 外来	手術 または 外来	
時間外	術前・術後 カンファレンス					

※外科の外来診療は3室で行っている。1診が初診外来で初診対応とその後の定期的経過観察、2～3診は術後のフォローアップ外来を行っている。

4. 指導医・スタッフ

嘱託顧問　記井（きい）　英治（えいじ）

出身　京都大学　S51

博士（医学）京都大学　S61

専門	消化器外科、一般外科
認定	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、麻酔科標榜医

副院長兼部長　坪野（つぼの）　充彦（みちひこ）

出身　滋賀医科大学　S57

博士（医学）京都大学　H7

専門	消化器外科、癌化学療法、内視鏡外科
認定	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本がん治療認定機構暫定教育医・がん治療認定医

第2部長　内田（うちだ）　茂樹（しげき）

出身　金沢大学　H2

博士（医学）京都大学　H11

専門	消化器外科、内視鏡外科
認定	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、臨床研修指導医

医長　遠藤（えんどう）　真一郎（しんいちろう）

出身　島根医科大学　H9

専門	消化器外科、一般外科、乳腺外科、内視鏡外科
認定	日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師

医長　三木（みき）　明（あきら）

出身　福井医科大学　H10

専門	消化器外科
認定	日本外科学会専門医、内視鏡外科技術認定医、臨床研修指導医

医長　杉山（すぎやま）　朋大（ともひろ）

出身　信州大学　H20

専門	消化器外科一般
認定	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医師、日本がん治療認定機構がん治療認定医

医長　木下（きのした）　裕光（ひろみつ）

出身　京都大学　H23

専門	消化器外科、内視鏡外科
認定	日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本がん治療認定機構がん治療認定医

医員　福井（ふくい）　由紀子（ゆきこ）

出身　福井大学　H24

専門	乳腺外科
認定	日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医師、乳腺超音波認定医師、日本がん治療認定機構がん治療認定医

医員　牧野（まきの）　健太（けんた）

出身　福井大学　H25

専門	一般外科、消化器外科

5. 診療設備等

・手術支援ロボット「ダヴィンチ（da Vinci Xi サージカルシステム）」米国インテュイティヴ・サージカル社（2017 年度導入）

6. 診療実績

手術症例数（1～12 月）

	2015 年		2016 年		2017 年	
全手術件数	626		572		544	
全麻手術数	454		415		412	
腹腔鏡下手術数	139		208		195	
緊急手術数	85		74		78	
術式別手術件数		うち 鏡視下手術		うち 鏡視下手術		うち 鏡視下手術
食道癌切除術	3	1	4	4	1	
胃切除術	60	51	46	16		
・幽門側胃切除術	35	31	29	13	36	27
・胃全摘術	25	20	17	3	13	4
大腸切除術	64	45	75	52		
・結腸切除術	51	37	61	43	45	31
・直腸切除術	13	8	14	9	27	18
肝切除術	1		7		10	
膵頭十二指腸切除術	1		5		2	
乳癌手術	84		86	3	83	
胆嚢摘出術	73	50	84	74	85	61
脾摘術			1	1		
ヘルニア手術	151		115	21	104	28
虫垂切除術	14	6	18	15	16	16
小児外科手術	20				9	
良性肛門疾患手術	34		14		12	

ＮＣＤ登録症例

登録診療科 / 登録症例	外科	胸部・心臓血管外科	その他	合計
1 消化管および腹部内臓	469(469)		163(0)	632(469)
2 乳腺	94(94)			94(94)

3 呼吸器		55(35)	28(0)	83(35)
4 心臓･大血管		102(82)	1(0)	103(82)
5 末梢血管(頭蓋内血管を除く)		135(115)	16(0)	151(115)
6 頭頸部･体表･内分泌外科(皮膚,軟部組織,顔面,唾液腺,甲状腺,上皮小体,性腺,副腎など)			33(0)	33(0)
7 小児外科	16(16)		5(0)	21(16)
8 上記1～7の各分野における内視鏡手術(腹腔鏡･胸腔鏡を含む)	200(200)			200(200)
9 外科領域(上記1～7)合計	579(579)	292(232)	246(0)	1,117(811)
10 外科専攻医の経験症例とはならないNCD登録症例		23(23)		23(23)
11 外科領域(上記9および10)	579(579)	315(255)	246(0)	1,140(834)

( )内は兵庫京大外科専門研修プログラムに按配　　2015年実績

7. 主な業績

【学会発表】

当院におけるロンサーフの使用経験
三木 明
第78回日本臨床外科学会
平成28年11月24～26日 於:東京都

直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術
木下裕光
第78回日本臨床外科学会
平成28年11月24～26日 於:東京都

内腔発育型の胃GISTに対して単孔式胃内手術を施行した2例
中村大地
第78回日本臨床外科学会
平成28年11月24～26日 於:東京都

完全内臓逆位胃癌に対して腹腔鏡下胃切除を施行した1例
三木 明
第29回日本内視鏡外科学会
平成28年12月8～10日 於:横浜市

腹腔鏡補助下前方切除術後の腸間膜欠損部に生じた内ヘルニアの1例
上本裕介
第29回日本内視鏡外科学会
平成28年12月8～10日 於:横浜市

8. 学会認定施設

- 日本外科学会専門医修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 地域がん連携拠点病院

乳腺外科

1. 乳腺外科の理念・特色

当院は、兵庫県北部では唯一の乳癌学会認定施設で、但馬地域で発症する乳癌の大部分を診療している。

人口の希少な、いわゆる郡部の病院ではあるが、都市部の乳腺専門を標榜する有名病院にひけをとらない乳癌診療の提供を心がけている。

乳腺専門医あるいは乳腺専門医取得を目指す医師のみが、診断、手術、補助療法、再発治療を一貫して担当している。

診断は迅速を旨として、受診当日に針生検あるいは穿刺吸引細胞診を実施している。

治療法の選択にあたっては、乳癌学会編纂の「科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン」に沿ってできるだけ標準的な治療法を患者に提示し、十分に話し合い、患者の意思を尊重して治療方針を決定している。

手術ではセンチネルリンパ節生検を実施することが多いが、ICG 蛍光法でセンチネルリンパ節の同定率を高め、転移の有無の診断にはOSNA 法を導入している。

術中の迅速診断や定期的に行っている病理カンファレンスなどでは、常勤病理医の存在がありがたく心強い。

また、関係する職種からなるブレストケアチームを結成しチーム医療を実践している。

診断においてマンモグラフィは放射線科医と外来担当医でダブルチェックを行っている。

超音波は女性技師が受診者全例にスクリーニングエコーを行い、有所見者のみ医師が診察室で再度検査し所見を確認している。

乳癌と診断された方に対しては、乳癌看護認定看護師が術前から術後補助療法に至るまでしっかりサポートし、化学療法においては薬剤師による薬剤投与量や副作用対策に関する助言が欠かせない。

週1回、ブレストケアチームによる術前・術後カンファレンスを行い、乳癌診療全体のレベルアップを図っている。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

- 乳癌診療に必要な基本的手技と基本的知識を身につけ、患者の社会的背景や家族関係も考慮し、患者の意思を尊重しつつ、診療にあたることができる医師。
- 他者の意見にも素直に耳を傾ける柔軟さと協調性を持った医師。

イ. 経験できる診療、技術

- 乳腺疾患の問診、視触診
- マンモグラフィ読影
- 乳腺超音波検査の実施
- CT、MRI、骨シンチの読影
- 穿刺吸引細胞診、CNB、VAB の手技
- 乳癌の治療方針の決定
- 術前薬物療法の実施
- 乳腺良性疾患に対する外来手術の実施
- 乳癌に対する手術の執刀
- 乳癌の術前術後管理
- 術後補助療法の決定と実施
- 術後のフォローアップ
- 再発乳癌の診断と治療選択
- 緩和ケア内科との連携

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	外来	外来・手術	外来・手術	外来	外来	
午後	外来	外来・手術	外来・手術	外来	外来	
時間外			病理カンファレンス	術前・術後症例検討会 ドックマンモグラフィ読影		

4. 指導医・スタッフ

部長　水田（みずた） 誠（まこと）

出身　兵庫医科大学　S59

専門	乳腺外科
認定	日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師

医長　遠藤（えんどう） 真一郎（しんいちろう）

出身　島根医科大学　H9

専門	消化器外科、一般外科、乳腺外科、内視鏡外科
認定	日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医師

医員　福井（ふくい） 由紀子（ゆきこ）

出身　福井大学　H24

専門	乳腺外科
認定	日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医師、乳腺超音波認定医師、日本がん治療認定機構がん治療認定医

5. 診療設備等

- 3D マンモグラフィ
- 1.5TMRI装置　フィリップスジャパン　Ingenia1.5
- 3.0TMRI装置　フィリップスジャパン　Ingenia3.0
- PDE システム：センチネルリンパ節生検時に用いる ICG 蛍光法に利用
- 乳がんリンパ節転移迅速検査システム　OSNA

6. 診療実績

手術症例数

	2015 年	2016 年	2017 年
乳がん手術	67	80	84
乳房切除術	39	46	43
乳房温存手術	28	34	41

7. 主な業績

【学会発表】

検診で発見され粘膜癌が疑われた encapsulated papillary carcinoma の1例
水田　誠
第24回日本乳癌学会
平成28年6月16～18日　於：東京都

当科で手術を行った乳腺 Fi brous　disease の4例
遠藤真一郎
第24回日本乳癌学会
平成28年6月16～18日　於：東京都

needle tract seeding により再発したと考えられた悪性葉状腫瘍の1例
福井由紀子
第24回日本乳癌学会
平成28年6月16～18日　於：東京都

8. 学会認定施設

日本乳癌学会認定施設

【学会認定専門研修プログラム】

乳腺認定医制度修練カリキュラム（2年）
乳腺専門医制度修練カリキュラム（5年）

胸部・心臓血管外科

1. 胸部・心臓血管外科の理念・特色

但馬、丹後地域における唯一の心臓血管外科・呼吸器外科である。当科は昭和27年に呼吸器科として発足し、結核の内科・外科治療を行ってきました。しかし結核患者の減少に伴い、心臓外科領域にも対応するようになり、昭和42年に心室中隔欠損の手術に成功し、以後50年を経過している。この患者はその後3人の母となり現在もお元気に生活されています。平成29年より胸部・心臓血管外科と名称変更し、心臓血管外科医3名、呼吸器外科医2名が在籍し心臓・大血管・末梢血管・肺・縦隔・胸壁の疾患に対応しています。少ない人員ですが、許せる限り24時間体制で緊急手術にも対応しています。当科の方針は、時流に惑わされることなく遠隔期を考慮した術式を確実に行い、生命予後、身体能力の改善を目指すことを旨としています。

但馬地方の人口は65歳以上の高齢者率33.5%（全国平均26.6%）、75歳以上の後期高齢者率18.5%（全国平均12.8%）と高齢者が多く住んでいる地方です。したがって、患者の身体的活動力、病気の重症度、合併疾患は様々です。近隣医療機関より当科または循環器内科、呼吸器内科へ紹介されてきますが、常に手術が唯一の治療手段と考えるのではなく、患者の活動能力・希望に沿って厳重に外来での観察を続け手術時期・適応を模索することもあります。患者の要望、私たちに出来ることを家族とともに話し合いながら治療にあたります。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

- 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 外科専門医の育成を通じて地域医療をささえ国民の健康・福祉に貢献すること
- 外科領域全般からサブスペシャルティ領域（心臓血管外科、呼吸器外科）またはこれに準じた外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

イ. 経験できる診療、技術

- 虚血性心疾患：労作時狭心症、不安定狭心症、心筋梗塞、左室瘤、虚血性僧帽弁逆流、虚血性心筋症
- 弁膜疾患：大動脈弁狭窄、大動脈弁逆流、僧帽弁狭窄、僧帽弁逆流、三尖弁逆流
- その他の心疾患：心臓腫瘍、心房中隔欠損、心房細動
- 大動脈疾患：胸部大動脈瘤、腹部大動脈瘤、急性大動脈解離
- 末梢血管：閉塞性動脈硬化症、末梢血管の動脈瘤、バージャー病、下肢静脈瘤、内シャント造設、内シャント狭窄
- 肺疾患：原発性肺癌、転移性肺癌、良性腫瘍、肺嚢胞、気胸、肺化膿症、膿胸
- 縦隔：縦隔腫瘍、重症筋無力症
- 胸壁：中皮腫、胸壁腫瘍、漏斗胸、胸壁外傷
- その他の疾患：手掌多汗症

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
早朝						
午前	手術 （心臓・大血管）	手術 （呼吸器外科・血管）	手術 （心臓・大血管）	外来	外来 ・ 血管造影 ・ 血管内治療	
午後					病棟カンファレンス 症例カンファレンス	
時間外	ICU術後管理		ICU術後管理	内科合同 カンファレンス （循環器・呼吸器）		

4. 指導医・スタッフ

副院長兼部長　那須（なす）　通寛（みちひろ）

出身　三重大学　S54

博士（医学）三重大学　S60

専門	心臓血管外科
認定	日本外科学会専門医、三学会構成心臓血管外科認定機構心臓血管外科専門医、心臓血管外科専門医認定機構専門医・修練指導医、臨床研修指導医

部長　阪口（さかぐち）　全宏（まさひろ）

出身　大阪大学　S60

博士（医学）大阪大学　H16

専門	呼吸器外科
認定	日本外科学会専門医・指導医、日本呼吸器外科学会専門医・評議員、臨床研修指導医

部長　田中（たなか）　仁（じん）

出身　三重大学　H1

博士（医学）三重大学　H7

専門	心臓血管外科
認定	日本胸部外科学会認定医、日本外科学会認定医、三学会構成心臓血管外科認定機構心臓血管外科専門医、静脈焼灼術実施医、臨床研修指導医

部長　平野（ひらの）　竜史（りゅうじ）

出身　三重大学　H1

博士（医学）三重大学　H8

専門	呼吸器外科
認定	日本外科学会専門医

医長　井内（いのうち）　幹人（みきと）

出身　岡山大学　H16

専門	心臓血管外科
認定	日本外科学会専門医、日本脈管学会専門医、三学会構成心臓血管外科認定機構心臓血管外科専門医、腹部大動脈ステントグラフト指導医、胸部大動脈ステントグラフト指導医、日本血管外科学会認定血管内治療医、静脈焼灼術実施医

5. 診療設備

バイプレーンアンギオ装置　フィリップス Allura Clarity FD20/15

超音波診断装置　フィリップス EPIQ7（生理検査室）

移動型汎用型X線透視装置　GE ヘルスケア OEC9900EliteMD

全身用X線 CT 診断装置　東芝メディカル Aquilion ONE

6. 診療実績

心臓・大血管症例数

	2015年	2016年	2017年
大動脈解離	6	8	5
心筋梗塞・狭心症	18	26	18
弁膜症	27	30	50
胸部大動脈瘤	7	8	3
大動脈損傷	0	3	1
その他	1	3	1
合計	59	78	78

心・大血管手術手技数

	2015年	2016年	2017年
冠動脈バイパス	26	36	29
弓部置換	4	6	1
基部置換	2	4	5
上行置換	6	12	5
大動脈弁置換	17	17	35
僧帽弁置換	4	7	8
三尖弁形成	5	13	9
僧帽弁形成	8	10	5
メイズ手術	4	2	3
胸部ステントグラフト内挿術	9	8	4
その他	2	4	1
合計	87	119	105

末梢血管手術数

	2015年	2016年	2017年
下肢血行再建バイパス術	6	9	4
下肢血行再建血管内治療	7	9	5
腹部大動脈ステントグラフト内挿術	22	22	23
腹部大動脈人工血管置換	3	1	1
血栓摘除術	5	8	12
内シャント血管内治療	27	35	40
内シャント作成術	14	21	50
下肢静脈ストリッピング(焼灼術)	37	47	27(7)
合計	121	152	162

呼吸器外科手術数

	2016年	2017年
原発性肺がん	24	51
転移性肺腫瘍	5	5
縦隔腫瘍	3	3
気胸	18	9
膿胸	1	1
生検・その他	8	5
合計	59	74

7. 主な業績

【学会発表】

EVAR 術後3ケ月目にB型急性大動脈解離を発症し stentgraft が collapse した1例
井内幹人、田中 仁、平野竜史、那須通寛
第 44 回日本血管外科学会学術総会
平成 28 年5月 25～27 日 於:東京都

大動脈食道瘻を伴う感染性大動脈瘤に対し、debranch TEVAR を行い救命しえた1例
井内幹人
第 57 回日本脈管学会総会
平成 28 年 10 月 13～15 日 於:奈良市

末梢血管に生じた多発動脈瘤の1例
井内幹人
第 31 回日本血管外科学会近畿地方会
平成 29 年3月4日 於:神戸市

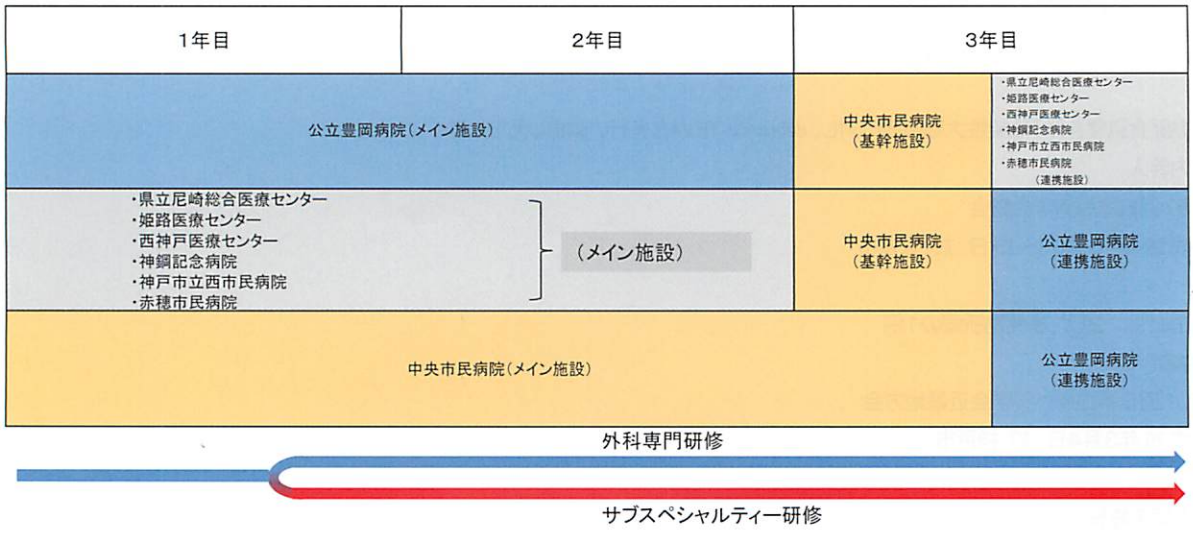
8. 学会認定施設

- 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構関連施設
- 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- 関連 10 学会構成胸部ステントグラフト実施施設
- 関連 10 学会構成腹部ステントグラフト実施施設

9. 連携するプログラム

兵庫京大外科専門研修プログラム

公立豊岡病院(外科、乳腺外科、胸部・心臓血管外科)での研修モデル



プログラム・資料に関する問合わせ先

TEL 078-302-4321　FAX 078-302-7537

e-mail

website http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident/medical

〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1−1　神戸市立医療センター中央市民病院総務課

三重大学医学部附属病院外科専門研修プログラム

公立豊岡病院(胸部・心臓血管外科)での研修モデル

基本コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	専門研修連携施設(外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科)											
	日本外科学会入会・外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度											
	目標経験症例120例以上(うち術者40例以上)											
2年目	三重大学病院(基幹施設)						地域連携施設					
	消化管	肝胆膵	心臓血管	呼吸器	小児	乳腺						
	日本外科学会定期学術集会への参加・外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度											
	目標経験症例240例以上(うち術者80例以上)											
3年目	専門研修連携施設						選択研修(将来のサブスペシャルティーを考慮して選択)					
	外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度											
	目標経験症例350例以上(うち術者120例以上)、学術発表など20単位以上											
学術活動:1年間に4回以上の学術集会へ参加、年間2回以上の筆頭者での学会発表または論文発表を目標とする。												

大学院コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	専門研修連携施設（外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）											
	日本外科学会入会・大学院入学・外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度											
	目標経験症例120例以上（うち術者40例以上）											
2年目	三重大学病院（基幹施設）						地域連携施設					
	消化管	肝胆膵	心臓血管	呼吸器	小児	乳腺						
	日本外科学会定期学術集会への参加・外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度・大学院での研究を並行して行う											
	目標経験症例240例以上（うち術者80例以上）											
3年目	専門研修連携施設						大学院で専任研究					
	外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度・大学院での研究を並行して行う											
	目標経験症例350例以上（うち術者120例以上）、学術発表など20単位以上											
学術活動：1年間に4回以上の学術集会へ参加、年間2回以上の筆頭者での学会発表または論文発表を目標とする。												

外科サブスペシャルティー領域展開コース

（例：心臓血管外科分野）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	専門研修連携施設（外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科）											
	日本外科学会入会。日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会の入会が望ましい 外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度											
	目標経験症例120例以上（うち術者40例以上）											
2年目	三重大学病院（基幹施設）						地域連携施設（外科・心臓血管外科）					
	消化管	肝胆膵	心臓血管	呼吸器	小児	乳腺						
	日本外科学会定期学術集会への参加・外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度											
	目標経験症例240例以上（うち術者80例以上）											
3年目	専門研修連携施設・基幹施設（心臓血管外科）											
	外来研修1回/週程度・該当科での救急当直3回/月程度											
	目標経験症例350例以上（うち術者120例以上）、学術発表など20単位以上											
学術活動：1年間に4回以上の学術集会へ参加、年間2回以上の筆頭者での学会発表または論文発表を目標とする。												

プログラム・資料に関する問合わせ先

TEL （プログラム）059-231-5019
（資料請求） 059-231-5529

FAX （プログラム）059-232-8095
（資料請求） 059-231-5114

e-mail （プログラム）uskm007@clin.medic.mie－u.ac.jp
（資料請求） iryousien-t@clin.medic.mie-u.ac.jp

website （プログラム） http://www.hosp.mie-u.ac.jp（申請書のダウンロードできます。）
（資料請求） http://www.doctor-mie.jp

（プログラム）〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174 三重大学医学部附属病院
外科専門研修委員会委員（担当：飯澤祐介 助教）

（資料請求）〒514-8507 三重県津市江戸橋2-174
三重大学医学部附属病院 新外来棟5階 専門医研修支援センター（担当：栗田）

先輩医師の声①

木下 裕光 医長

豊岡病院外科、卒後8年目の木下裕光と申します。豊岡病院外科に赴任してから3年が経ちます。

当科は消化器外科6名、乳腺外科3名で構成されています（2019年2月時点）が、カンファレンスや回診、様々な行事はひとつの診療科としてまとまり、共に活動しています。私は消化器外科の魅力についてご紹介いたします。

①豊富な経験症例

地域の基幹病院であり、経験症例が豊富です。胃大腸を中心に肝胆膵、肛門疾患、ヘルニア、小児外科など疾患分野は幅広く、また若手医師に執刀の機会を下さるため、絶えず様々な症例を経験することができます。

地域の特性として進行癌が多いのが特徴です。早期胃癌に対して幽門保存手術、高位分節切除などにも取り組んでいる他、ロボット手術やGISTに対するLECSも導入されています。

3年間の経験症例数：（～2018/12）大腸75例 胃60例 膵臓6例 肝8例 胆嚢・ヘルニア・その他多数（全体の手術数についてはHPを参照してください）

②土日夜間の時間を有効利用

当院では救急科が緊急手術も含めた救急患者対応を行うため、当科で土日夜間に行う緊急手術は少ないのが現状です。（当科相談症例はあるので、もちろん緊急手術の経験も出来ます。）そのため空いた時間を勉学にあてる、休養にあてる等、様々な有効利用が可能となります。

③学術活動

経験症例が豊富なため、学会発表の材料も豊富です。各地への学会参加は、視野を広げるチャンスであり、積極的に後押ししていただけます。

④環境

病院周囲は緑が多く、空気は綺麗です。海山ともに近く、休日にはレジャーを楽しむこともでき、リフレッシュした状態で仕事に打ち込むことができます。スタッフの人柄も良く、最高の環境で、じっくりと自分を磨くことができます。

先輩医師の声②

豊岡病院乳腺外科、卒後7年目の福井由紀子と申します。

当院の乳腺外科の特徴は、患者層の広さです。この地域で乳腺外科はここだけですので、いろいろな背景の患者が集まります。

似顔絵（自筆）

一人一人に応じた治療を、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、リハビリ科スタッフなど他職種よるチームカンファレンスで相談します。その結果をふまえて、患者と一緒に治療を選択し、安全に確実に進めていけるよう支援するという奥深さ、やりがいがあります。

新規乳癌患者は年間100例程度です。少なすぎず多すぎず、勉強しながら仕事もできる、ほどよい規模だと思います。

不便な点は、交通の便です。ただ学会や論文発表、勉強会の参加は積極的に後押しして頂けます。院内でネット配信の勉強会もたくさんありますし、都市の病院と遜色はないと思います。

これまで豊岡病院で勤務されていた先生方は「豊岡の人はいい人ばかり」と言われています。ご飯はおいしく、住みやすく、働きやすい病院です。ぜひ豊岡での勤務を考えてみてください。